

平成24年度における施策評価

施策評価調書

政策コード	4	政策名	いのちと健康を守る安全・安心な社会づくり			
施策コード	3	施策名	心の健康づくり・自殺予防対策の推進			
幹事部局コード	4	幹事部局名	健康福祉部	担当	健康推進課	
評価者・実施日	1次評価（健康福祉部長）		平成24年7月31日	2次評価（企画振興部長）		平成24年8月31日

1 施策の方向性（必要性と目的）

近年は自殺者数が減少傾向にあるもの、平成23年の人口10万人当たりの自殺死亡率は、33.1で平成7年以降17年連続で全国1位が続いている状況である。

このため、心の健康づくり・自殺予防対策の充実に向け、民間団体や、市町村、大学と連携しながら、総合的な自殺予防対策を推進する。

また、県としても「秋田県自殺予防対策推進会議」で市内の横断的対策に取り組むとともに、各種相談機関の普及啓発や、自殺のハイリスク者といわれる自殺未遂者の支援、割合が高い高齢者の自殺予防を積極的に行う。

また、民間が主体となって自殺予防活動を展開する「秋田ふきのとう県民運動実行委員会」や、民間団体、市町村を積極的に支援し、県民一丸となった自殺予防対策に取り組んで行く必要がある。

2 施策の状況

(1) 施策目標及びその達成状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H22	H23	H24	H25	備考
		年度						
①	人口10万人当たり死亡率	37.1	目標値	35.2	34.6	34.1	33.5	
		H20	実績値	33.1	32.3			
	厚生労働省人口動態統計調査による		達成率	106.3%	107.1%			
達成度				A	A			

達成度 A:「全て達成」 B:「半分以上達成」 C:「達成が半分未満」 D:「全て未達成」 E:「その他」

(2) 施策の推進状況

①
<p>■取組内容</p> <p>○県内の各種相談機関のネットワークである「ふきのとうホットライン」をキャンペーン等で配布し、早期相談を勧奨するとともに、市町村が実施する自殺予防対策事業や、民間団体における自殺予防の取組への支援を行った。</p> <p>○高齢者に特化した市町村の自殺対策事業を支援する制度を創設、支援した。</p> <p>○消防や救急医療機関を対象に自殺未遂者実態調査を実施し、報告書を作成した。</p> <p>○知事を議長とする「自殺予防対策推進会議」を中心に、ハローワークにおけるこころの健康相談、多重債務相談、街頭キャンペーンなどを実施した。</p> <p>○高齢者の自殺予防普及啓発事業として、わらび座に委託し生き生きシアター「笑顔予報は晴れのち晴れ」を県内3カ所で公演し、約1,200名の参加があった。</p> <p>■取組の成果</p> <p>○地域における自殺対策の強化のため、全市町村の自殺予防対策事業や、民間団体（10団体）へ助成し、巡回相談や講演会の実施、交流の場づくりなどを支援した。</p> <p>○高齢者に特化した市町村事業への支援や、わらび座の巡回公演などにより、高齢者は前年比33人減少（△20.8%）した。（警察統計）</p> <p>○ハローワークにおける心の健康相談会を36回実施した。</p> <p>○自殺未遂者の実態調査により、秋田県の自殺未遂者の現状が見えてきたことから、今後は具体的な支援策を検討していく。</p> <p>■課題と今後の推進方向</p> <p>○人口10万人当たりの自殺死亡率は、平成23年（32.3（概数））においても全国で最も高く、17年連続となっている。本県では高齢者の割合が高く、また、働き盛りの世代も多いのが特徴である。今後、高齢者の自殺予防対策や、働き盛り世代のメンタルヘルス対策、一般的にハイリスクと言われる自殺未遂者対策を推進する必要がある。</p> <p>○自殺予防活動を県民運動として展開している「秋田ふきのとう県民運動実行委員会」の、活動定着に向けた支援を行っていく必要がある。</p>

3 評価

(1) 施策幹事部長による1次評価

評価結果	●施策の推進状況 ○市町村や民間団体等、地域が主体となった心の健康づくり・自殺予防の取組に加え、各種相談、普及啓発などを行った結果、平成23年の自殺率（概数）は全国1位であるが、自殺者数は2年連続で減少となった。 ○高齢者に特化した市町村事業への助成や、わらび座の巡回公演による普及啓発事業などにより、高齢者の自殺予防に対する意識の向上が見られるようになった。
概ね順調	●課題と今後の推進方向 ○自殺は、健康問題などの個人的問題や、経済情勢などの社会的要因が複雑に関連していることから、自殺予防対策においては、総合的な対策が必要であり、「自殺予防対策推進会議」による全庁的な取組の推進と、民間主導による「秋田ふきのとう県民運動実行委員会」の運動の両輪の活動により、効果的な予防に繋げる必要がある。 ○高齢者や働き盛り世代への対策を強化するとともに、ハイリスク者である自殺未遂者対策や、自死遺族の支援を充実していく必要がある。

(2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	●施策の推進状況 地域における対策の強化を支援したことにより、市町村や民間団体等、地域が主体となった取組が積極的に進められるようになり、これに併せて、各種相談事業や啓発活動などの効果もあって、自殺者数は減少しており、概ね順調と評価される。 また、新たな取組であるわらび座公演は、高齢者等の自殺予防意識の向上に効果があったほか、話題性があったことから、マスコミに取り上げられ、全県的な啓発効果もあった。
概ね順調	●課題と今後の推進方向 自殺者数をさらに減少させるためには、その原因として想定される幅広い問題に対応する必要があることから、各部局の連携した取組に併せ、民間団体や市町村と協調した取組を、引き続き進める必要がある。 また、高齢者や自殺未遂者等、対象者を絞った効果的な対策のほか、大きな問題となっている自死遺族支援の充実にも取り組む必要がある。

4 評価結果の反映状況等（対応方針）

<p>さらなる自殺者の減少を目指し、様々な社会的要因に対応するため、庁内の連携や、市町村、民間団体の取組を支援しながら、地域レベルの取組を着実に推進する。</p> <p>また、例年、自殺者の中でも割合の高い高齢者や、働き盛りの方に対する対策を継続するほか、自殺のハイリスクといわれる自殺未遂者への具体的支援に着手すると共に、自死遺族支援にも引き続き取り組んでいく。</p>
--

5 政策評価委員会の意見

--